



# PREX NOW

No. **174**  
May  
2008

財団法人 太平洋人材交流センター  
Pacific Resource Exchange Center

## contents

page 1 ●ニュース&レポート 1

「PREXビジョン」の策定について

page 2 ●研修関係者の声

中国の環境大国への転換を期待して

page 3 ●ニュース&レポート 2

中東の国、シリアから経営管理を学びに!

page 4 ●ニュース&レポート 3

マレーシアブランドづくりが観光開発のキーワード

page 5 ●ひとこと

内向きの日本でいいのか

独立行政法人 国際協力機構 (JICA)

大阪国際センター 所長 酒井利文氏

page 6 ●PREXだより

事務局ニュース、コラム



途上国と関西にとって、  
なくてはならない  
存在になることをめざす。



## 「PREXビジョン」の策定について

PREXは、一昨年以來、事務局職員を中心に検討を重ね、PREXトップ会での数回にわたる審議を経て、このたび「PREXビジョン」を取りまとめた。

### 1 策定にあたっての基本方針

- (1) 目標年度：10年後の2018年
- (2) 設立以來、18年間で培ったPREXのコア・アイデンティティ(強みと特色)を生かし、途上国発展に寄与する活動を展開すること  
 <コア・アイデンティティ>
  - ① 途上国の人材育成のための実践的マネジメント研修を行う豊富な企画・運営ノウハウを持っていること
  - ② 国内外の幅広い人的ネットワークを形成していること
    - 1) ODA関係機関、海外関係機関
    - 2) 関西の民間企業、地方自治体、大学
    - 3) PREX同窓会、帰国研修員など
  - ③ 関西に拠点を置いていること/研修事業を支えるすぐれた機関があること
    - 1) すぐれた中堅企業経営者が多数存在する
    - 2) 優秀な大学と教授陣に恵まれている
    - 3) 主要な民間企業、自治体がPREXの活動意義を理解し支援体制が整っている
- (3) 研修事業を通じて人材交流を活発化し、関西を世界都市を中心とした地域圏に発展させること

### 2 PREXの理念と使命

- (1) 中堅マネージャーの人材育成支援を行うことで、途上国の発展に資する  
途上国の企業発展に不可欠な中堅マネージャーの育成支援に重点をおく。アジア・太平洋地域の途上国の発展に貢献することは長期的視点で関西経済の発展をもたらす
- (2) ODAの活用による途上国に役立つ人材育成協力  
関西の産・官・学が連携し、ODA資金を活用して人材育成協力をし、日本のODAが途上国に感謝される事業として展開する
- (3) 途上国の人材育成支援を通じた人材交流の活発化  
関西の産・官・学が有するすぐれた人的資源と研修施設を有機的に結ぶコーディネート役を果たし、途上国の将来を担う人材が関西で学ぶ機会を増やすことによって、関西の魅力を幅広く理解してもらい、アジア・太平洋地域と関西との人的交流を活発化する

### 3 PREXのビジョン

『途上国と関西にとって、なくてはならない存在になることをめざす』

途上国が発展するために不可欠な企業の中堅マネージャーの育成支援機関として、なくなつては困るといわれる存在になること、関西地域の自立と発展にとってなくてはならないといわれる存在にまで発展することをめざす

### 4 重点目標

- (1) 途上国の人材育成を支援できるマネジメント研修実施機関としてのさらなる専門性の向上
  - ① 途上国の産業振興と企業発展をテーマとした実践的かつ効果的な研修に継続して取り組み、新たな視点から現在の中堅マネージャー育成に加えて、将来の中堅マネージャー候補(在日留學生など)の育成支援を行う
  - ② 時代の要請に対応するため、環境問題など新しいテーマをとりあげ、それに取り組む人材の育成について新しいカリキュラムを作成し関係機関に積極的に提案する
- (2) 研修事業を通じた、国際的人材交流のさらなる活発化
  - ① 研修を通じて、途上国と関西の人材の間での相互理解促進に取り組み、相互研鑽を進める
  - ② PREX同窓会・帰国研修員、海外関係機関との人的ネットワークを活用してアジア・太平洋諸国との交流の拡大と、情報ネットワーク技術を駆使した関連情報の受・発信機能を強化する
- (3) PREXの活動を支える多様な人材の育成と活用  
PREXの職員を含め、PREXの活動に携わる人材の多様化を図り、専門性を高める



## 中国の環境大国への転換を期待して

### 「資源循環社会における中国の都市環境整備システムの構築」訪日研修

中国では、著しい経済成長に伴って都市廃棄物の適正な処理が大きな課題となっており、都市環境整備システムを構築するとともに、循環型社会の構築を目指すことが緊急の課題である。本事業では、年々増大しつつある家電の廃棄物処理システムとリサイクルシステム構築を目指すことを主な目的として、3年間のプロジェクト:1年次では、現地セミナー・現地実態調査の実施および訪日研修(幹部中心)、2年次は管理者中心、3年次は実務メンバー中心の訪日研修を実施する。2007年度は兵庫県と広東省との友好提携25周年であったこともあり、本事業は兵庫県とPREXが国際協力機構兵庫国際センター(JICA兵庫)に草の根提案型事業として共同提案を行い、採択されたものである。このたびは、1年次の訪日研修を2008年2月23日より3月6日まで実施した。兵庫県側のご担当者、藤井様よりメッセージを頂戴した。



藤井 英映 氏

兵庫県 観光交流課  
副課長

昨年は、兵庫県と広東省、友好都市25周年にあたることもあり、(財)太平洋人材交流センターの協力を得て兵庫県国際交流課からJICA草の根地域提案型事業に応募し、採択され、今年度から3年間の事業を進めています。

#### ■ 専門家派遣事業に参加して

私も、昨年7月の専門家派遣事業に参加し、初めて広東省の広州市を訪問させていただきました。広州市では、広東省の環境保護局や科学技術庁において環境保護の現状や施策の概要を伺うとともに、環境セミナーを開催したところ、広東省各地から行政関係者、学識経験者、学生な



自動車のリサイクル工程を見学した。

どに多数参加いただくなど、省政府をはじめ、広東省の方々の環境保護への意識は高いということを実感いたしました。しかし、これから徐々に環境保護システムを構築し、広東省という広大な範囲かつ生活格差が激しい1億人近い省民に浸透させるという道のりは長く険しいのではと感じる一方、一人っ子政策などのように、国家レベルで取り組むと、走り出したら早いのかも感じました。

特に今回は、家電リサイクルを中心に、サ



明治神宮にて、手水舎の水で手を洗う手順を教わり、挑戦する研修参加者ら。



京都の伝統手芸を体験した。

ミットラボの杉村先生や、松下エコテクノロジーセンターの堤社長にも同行いただくなど、私自身、新たなネットワークができたことを喜んでおります。

#### ■ PREXの先導的な取り組み

中国における環境問題が世界的にクローズアップされる中、広東省と友好提携を結ぶ兵庫県としては、できる限りの協力を行っていきたくと考えております。中国の一日も早い環境大国への転換を期待するとともに、今回のPREXの先導的な取り組みに感謝しています。

#### TOPIC

##### 廃棄物処理という仕事

今回は研修参加者のみなさんとともに、私もはじめて廃棄物処理施設などを見学する機会を得た。生活ごみについては、非常に身近なものであるにもかかわらず、ごみに出してしまっただけのような処理をされるのか、十分理解していなかった。資源ごみの分別では、途中までは機械により分別されるが、最終段階ではやはり人の手にたよらざるを得ない。見学をしていると、分別して出しているはずのごみに考えられないようなものが混じっていたり、食べ物の残りがそのままになっていたり…。マスクはされているものの強烈な悪臭の中での作業である。

途上国からの研修参加者にとっても非常に参考になるに違いないが、日本人もぜひこのような実態を知り、そこで働く方のことも考えて、正しく分別、洗ってからのごみだしをするべきだと強く感じた。生活ごみを含めた廃棄物処理は大変きつい仕事であるが、地球環境にとっても、私たちの日々の生活にとっても、非常に重要で必要不可欠のものである。事業に携わる方々に敬意を表するとともに、よりよい環境のために自分でできることから行動を起こす必要性を、反省をこめて強く実感した。

—国際交流部 担当課長 酒井 明子

#### 「資源循環社会における中国の都市環境整備システムの構築」訪日研修

- ◎実施期間 2008.2/23~3/6
- ◎研修参加者 5名
- ◎委託元機関 独立行政法人 国際協力機構(JICA) 兵庫国際センター

#### お世話になった方々、企業・団体他

(講義、訪問順・敬称略)

環境省、家電製品協会、東京都環境局、新日本開発、明石クリーンセンター、兵庫オートリサイクル、神戸市資源リサイクルセンター、環境設備工業、浜田、ひょうご環境創造協会、兵庫県環境クリエイトセンター、松下エコテクノロジーセンター、サミットラボ、兵庫県



# 中東の国、シリアから経営管理を学びに！

[シリア総合経営管理研修]

PREXは、シリアのダマスカス、アレppo両工業会議所から3名と民間企業経営幹部5名の8名を迎えて総合経営管理セミナーを実施した。1ヶ月に及ぶ滞在では公的機関、企業を多数訪問し、アクションプランに日本で学んだヒント、アイデアを数多く織り込むことができた。

## ■ 新しくカリキュラム開発を！

今回、わかりにくい生産改善活動をすこしでも理解していただこうと、シニア専門家の吉岡氏、福田氏の協力で午前を導入講義、午後に企業現場訪問のパッケージでカリキュラム開発を行った。切り口は「5S運動」「提案運動」「見える化」「かんばん」の4つでそれらを経営改善、改革のツールとして理解を深めるプログラムとした。

午後の企業訪問では、「5S運動」にはドラミネート加工の専門メーカーの新生紙化工業㈱でオフィスまで定置定量が徹底されている現状に驚き、「提案運動」では家具メーカーで㈱キシモトが取り組まれているTHANKSカードシステムに関心があつまり、「見える化」ではアルミダイカストのトップメーカーの寿ダイカスト工業で現場のあちこちで行われている見える化事例を熱心に学ぶことができた。最後のテーマの「かんばん」は少し難しかった模様だが、午前のわかりやすい説明を受けて、午後では自動車部品メーカーの明石機械工業で実際の「かんばん」を手にとってみることで、なるほど！と上がる声にこの企画の狙いに手ごたえありと胸をなげ下ろした。



カリキュラム開発で協力いただいた吉岡・福田シニア専門家とともに。



5Sを新生紙化工業㈱で学ぶ。



企業展示コーナーアイデアはシリアでも応用したいとの声。

## ■ 成果をシリアに向かってTV会議でアピール！

アクションプラン発表会を2部構成とし、1部では各自の取り組みをおのおのが発表し、杉村講師にコメントいただき、さらに内容を深めた上で、いよいよ2部ではシリアオフィスとTV会議で結んでその結論をシリアのシニア専門家達にもコミットする形とした。各研修参加者は久しぶりに見るシリアオフィスの仲間たちに笑顔とともに力強い言葉で帰国後の取り組み課題をアピールすることができた。それは現地と日本とが研修を通じて一体化し、改善を力強くすすめていく姿を垣間見た気がするとともに、これ

こそ国際交流の原点と感じ、いままでの努力が報われたような満足感に浸ることができた瞬間でもあった。

まさに、シリアからの友人たちに万歳。。。

—事務局長 深田 進



京都西陣織会館で伝統工芸に触れる。

### TOPIC

#### シリアは古い国!!

中東は遺跡の宝庫。3Pと言われる名跡を貴方はすべて知ってますか。

インディジョーンズの映画で一躍有名になったヨルダンのペトラ、アレクサンダー大王が炎とともに焼きつくしたペルシア帝国の最後の王宮ペルセポリス、そして3番目がシリアのバルミラ。ここはローマ帝国時代の隊商都市、シルクロードの中継点でした。ダマスカスにはバウ口教会、ウマイヤドモスク、最大級のバザールと観光スポットにも事欠きません。さあ、貴方も次の海外旅行にシリアはいかが。。。



#### シリア総合経営管理研修

- ◎実施期間 2008.2/18～3/14
- ◎研修参加者 8名
- ◎委託元機関 独立行政法人 国際協力機構 (JICA) 大阪国際センター

#### お世話になった方々、企業・団体他

(講義、訪問順・敬称略)

(有)サミットラボ 杉村社長、大阪国際大学 谷川教授、吉岡シニア専門家、福田シニア専門家、岩本シニア専門家、松下電器歴史館、松下エコテクノロジーセンター、新生紙化工業、キシモト、寿ダイカスト工業、明石機械工業、北斗電子工業、JETRO、平和工業、トヨタL&F、東京都中小企業振興公社、パナソニックセンター、クリエーションコア東大阪、関西生産性本部、西陣織会館



# マレーシアブランドづくりが観光開発のキーワード [マレーシア観光開発セミナー]

国際協力機構(JICA)大阪国際センターからの委託で、「マレーシア観光開発における地方自治と公共人材育成」セミナーを実施した。参加者はマレーシアの地方自治体で、観光開発に携わっている行政官2名、日本の観光開発を理解するために3週間来日した。常夏の国から来た研修員は、雪の寒さに震えながら観光地を回った。研修を担当した井上久生シニアコースリーダーの報告である。



マレーシア大使館を訪問し、大使と交流を深めた研修参加者ら、左端が筆者：井上シニアコースリーダー。



東京では、はとバスにて、ツアー企画のあり方や観光客へのサービスについて講義を受けた。

## ■ JICA大阪より受託した 2回目の観光開発研修

研修の最大の眼目は、近隣諸国との差別化をはかり、マレーシアへもっと多くの海外観光客を招来するための観光振興策と仕組みづくりを探ること。そのために日本の観光振興策と地域開発事例を学習することにより、日本の観光産業の現状の取組みを理解し、戦略的観光振興手法と行政・民間部門の果たすべき役割を学んでマレーシア観光開発のヒントを得てもらおうと3週間のプログラムを組んだ。

## ■ 様々な事例により現場学習を実施

日本も海外観光客は伸び悩みの状況が続いているが、その中で、官民とも様々な工夫と新しい取組をしている。今回その現場をいくつか訪問してその取組内容からマレーシアでも応用できるヒントをつかんでもらうプログラムづくりをした。

- ◎兵庫県の「産業ツーリズム」の取組：地元  
の灘五郷の伝統産業やIT、バイオなど先端産業の工場見学などをとり入れた取組
- ◎姫路市の「姫路城—世界遺産のPR観

光」：世界遺産をじっくり味わってもらうガイド付観光や付属のイベント開催などの取組

- ◎ Visit Japan キャンペーンの韓国人向け観光PR：韓国のヤングギャル向けの日本の新しい魅力紹介のキャンペーンの成功事例

## ■ 近隣諸国との差別化

アジア各国とも観光は国策の一つの柱であり、それぞれに魅力をPRして海外観光客の誘致に取り組んでいる。その一つとして近年新しい観光地とスポットを浴びているマカオの事例を学習した。マカオといえば「ギャンブル」として認識されてきたが、近年、世界遺産、マリンスポーツ、高級保養地などを組み合わせた、「家族で楽しめる複合観光地」として変身した。その手法は、マーケティング会社による科学的手法を駆使した観光開発への取組により、複合観光地に変身を遂げ、世界的ホテルチェーンを誘致するなど、地の利を活かし毎年前年比30%に近い伸びを記録している。その

キーワードは「マカオブランドづくり」。

## ■ 「もてなしの心」を体験

かねてから日本人の観光客誘致には日本人独特の異文化理解が必要との認識があり、今回赤穂温泉の和風旅館で日本人の「もてなしの心」なるものを体験した。本物の温泉に入り、仲居さんの給仕で朝夕とも和食を賞味し、浴衣をきて布団で寝るといった典型的な温泉観光。おりしも雪景色が体験でき研修参加者にとっては思い出深い一泊となった。

最後にたった2名の研修参加者を快く受入頂いた多くの関係先の方々、コースリーダーの桂井先生、コーディネーターの黒澤さんに厳寒期の3週間の研修のお礼を申し上げます。

お陰様で大学のゼミ講座のような中味の濃い研修ができました。

—PREXシニアコースリーダー 井上 久生

## TOPIC

### これからのマレーシア観光のあるべき姿

マレーシアの観光開発は、周りにシンガポール、インドネシア、タイ、フィリピン、香港、マカオといずれも観光立国を目指す競争相手があり、近隣諸国との差別化になやんでいる状況。毎年 Visit Malaysia キャンペーンを打ち出すものの今ひとつ海外からの観光客は伸び悩んでいる。日本人向けにも、新しい切り口として、エコツーリズム、修学旅行、中高年向けのロングステイなどの取組も進めているが、ここ数年は30万人台で伸び悩み。今回の研修でも、テーマの一つとして、日本人観光客対象にどう「マレーシアのよさ」をアピールするかも取り組んでもらう事にした。

数ある観光資源を活かして、近隣諸国との差別化を如何に図り「マレーシアブランド」づくりを実現するかは難しい課題。また、Visit Malaysia キャンペーンの内容も観光省、州政府、地元  
の官民の三位一体の取組が必要であろう。

## マレーシア観光開発における地方自治と公共人材育成

- ◎実施期間 2008.1/20~2/9
- ◎研修参加者 マレーシアの地方自治体で観光振興分野における地方開発に携わる職員
- ◎委託元機関 独立行政法人 国際協力機構(JICA) 大阪国際センター
- ◎内 容 日本の観光振興と地域開発、観光事例紹介、旅行コーディネーターとの懇談会 等

## お世話になった方々、企業・団体他 (講義、訪問順・敬称略)

マレーシア政府観光局 大阪支局、名古屋外国語大学 桂井彦彦講師、日本旅行業協会 関西支部、JTBアジア、ヒポファミリークラブ、ひょうごツーリズム協会、北野工場の町、マレーシア大使館、ビジット・ジャパン・キャンペーン実施本部事務局、はとバス、マカオ観光局、ウェブトラベル、神戸市、赤穂温泉 祥吉の湯、姫路市、京都市



## 内向きの日本でいいのか

独立行政法人 国際協力機構 (JICA) 大阪国際センター  
所長 酒井 利文 氏

### ジャパンパッシングと内向きの日本

最近メディアで「ジャパンパッシング」というフレーズをよく耳にします。ご承知のように世界のモノ、カネ、ヒト（「関心」といってもいいかもしれません）の流れが日本を素通りしているのではないかと、いわれているようです。試みにモノの流れ、世界の港湾のコンテナ取り扱い数ランキングを調べてみると、'05年統計では世界トップ30の中に東京港（22位）、横浜港（27位）が辛うじて入っているに過ぎません。1980年の統計では神戸港が世界の第4位に入っておりましたが、残念ながら今は神戸、大阪港共にトップ30の圏外のようなようです。他方、今年は北京オリンピックの年、ヒトの流れというか、アジアで世界の関心を集めているのはもっぱら中国であり、かつてのアジアの経済大国日本の影は薄くなる一方の感があります。

あの「失われた」90年代、不況下の不良債権処理、リストラといったネガティブファクターばかりの中で臥薪嘗胆を強いられてきたわけですから、仕方が無いのかもしれませんが。しかしその間に、さまざまな指標で日本はかつての勢いを失い、国の信用度を測る国債ランキングですら、もはや先進国の中では最低ランクという体たらくです。その一方で韓国やBRICSといわれる新興国が目覚しく経済発展を成し遂げ、マクロではまだまだ日本には及びませんが、局地戦では既に、日本の生命線とも言うべき「高付加価値製品」市場でも後塵を拝していることが（例えば、国際市場での携帯電話販売台数）、なんとも心配です。

さて、21世紀に入り、ようやく日本の景気も上向きと伝えられてきたにもかかわらず、今の日本の大勢

は、まだまだ守りというか、内向きのような気がしてなりません。国際協力の世界でも、日本の政府開発援助（ODA）の額は世界一の規模であった97年をピークに減少を続け、'06年には24年ぶりに世界第3位に転落しました。また、国内の地方自治体の財政難が深刻化し、各自治体ともおしなべて国際協力、国際交流関係予算が減額されています。さらに、少子高齢化の影響もあってか、青年海外協力隊への応募者数が減少を続けているのも、日本の将来を担う若年層の意識が内省化しているようで非常に気がかりです。また、国内のニュースといえば、食品の賞味期限を偽造したとか、年金記録がなくなったとか、道路特定財源をどうととか、内向き、後ろ向きでスケールの小さい話題ばかりです。こんな感じで、将来日本は生き残っていけるのか、いささか不安になります。

### 日本のモノづくりに対する世界の畏敬は厚い

悲観的なことばかり述べましたが、明るい話を一つ。それは日本のモノづくりに対する世界の畏敬の念はまだまだ厚いということです。小さな話かもしれませんが、PREXさんをお願いしている「中小企業振興政策」研修コースは、JICAの実施している600近い研修の中で、開発途上国政府の参加要望度は図抜けています。その背景には関西中小企業の持つ技術力、経営能力、ひいてはわずと知れた「モノ造り大国日本」への期待が表れています。関西企業が「内向き」な日本を「外向き」に変えてくれる原動力になってくれることを期待しております。

PREXの研修の約半数は、JICAの委託を受けて実施するものです。PREXでは、途上国の政府幹部を対象にした「中小企業政策セミナー」を2001年よりJICAの委託を受け実施しています。2008年度は、本セミナーに加え、新たに2件の「中小企業振興政策」コースを実施します。

事務局  
ニュース

**平成19年度第2回評議員会・理事会終了**

3月25日に評議員会、26日に理事会を開催。平成19年度の事業の進捗状況、収支見込、基本財産運用状況、事務局役職員の状況についての報告、平成20年度の事業計画案、収支予算案、理事・評議員選任案、顧問委嘱案の審議、決定を行った。役員の異動は以下のとおり。

**【理事・評議員選任、顧問委嘱(順不同・敬称略)】**

- 理事…… ■ 新任／安藤 力：住友金属工業 代表取締役副社長  
門川 大作：京都市 市長  
齊藤 紀彦：関西経済同友会 代表幹事  
橋下 徹：大阪府 知事  
平松 邦夫：大阪市 市長
- 退任／作田 頼治：住友金属工業 前取締役副社長  
柘本 頼兼：京都市 前市長  
小嶋 淳司：関西経済同友会 代表幹事  
太田 房江：大阪府 前知事  
關 淳一：大阪市 前市長
- 評議員…… ■ 新任／小林 哲也：近畿日本鉄道 代表取締役社長  
白石 達：大林組 代表取締役社長  
鷲田 清一：大阪大学 総長
- 退任／常次 正弘：近畿大阪銀行 執行役員  
山口 昌紀：近畿日本鉄道 代表取締役会長  
脇村 典夫：大林組 特別顧問  
宮原 秀夫：大阪大学 前総長
- 顧問…… ■ 新任／大島 賢三：国際協力機構 副理事長  
田波 耕治：国際協力銀行 総裁
- 退任／畠中 篤：国際協力機構 前副理事長  
篠沢 恭助：国際協力銀行 前総裁

**人の動き**
**〈新任〉**
**大西 正機(おおにし まさき)**

国際交流部 担当部長／2008年4月1日付



この度、サントリー株式会社から4月1日付けでお世話になることになりました。まだセミナー経験は有りませんが、先輩諸氏の真剣で熱心なレクチャーを受ける中で、これまでの活動成果の意義・重要性を痛感しているところです。海外経験の乏しい私が、どの程度研修参加者の方々の社会事情や生活環境を汲み取り、研修成果を高められるかは未知数ですが、PREXでの活動を続ける中で、日本古来の文化に根ざす考え方も少しは感じてもらえる様なサポートを、是非心掛けてゆきたいと思っております。ご指導よろしくお願ひ致します。

**〈新任〉**
**西阪 三友紀(にしざか みゆき)**

国際交流部 部員／2008年4月1日付



みなさまはじめまして。今年度4月1日よりPREXに加えていただくことになりました。学生時代はパプアニューギニア・インドネシア地域研究を専攻し勉強してまいりました。PREXの一員になることが出来、ここに目標を掲げさせていただきます。

第一に、関西の産・官・学に携わられている皆様にPREX活動の意義を伝え続け、心からの協力をお願いし、ご一緒に活動させていただきたいです。

第二に研修を受けられる人々の心の声を聞き、PREXの皆様と心のこもったオンリーワンのプログラムを提案、提供することです。まだまだ未知・未熟ものですが、ご指導のほどよろしくお願ひ致します。

**C O L U M N**
**インターンシップを体験して(2008年2月8日～3月21日)**

立命館大学 国際関係学部 3年生 森津 瑛理子さん

インターンシップをして一番良かったと思うことは、たくさんの人と出会えた事だ。PREXの方、通訳の方、途上国からの研修生の方等、普段なら身近にいて話す事が決して無い方とお会いできるのはインターンシップの醍醐味だと感じた。

たくさんの方と出会って、私が一番大切だと感じたことは人との絆である。1つの研修が実施されるためには多くの人の協力が不可欠だ。たくさんの方の仕事なされている姿を実際に見て、様々な経験を持つ人達が結束して1つの事を成し遂げるといふ事のやりがいを感じ取ることが出来た。もう1点、私が印象に残っている事はPREXが女性にとって働きやすい場所だということだ。多くの女性が活躍されている姿を見て、NPOは女性にとって可能性のある労働環境なのだと感じた。

今回のインターンシップを通して、これまで漠然としていた「働く」といふことを真剣に考えるきっかけを与えて頂いた。7週間無事にインターンシップを終えられたのは、PREXの方をはじめ、訪問先の方、関係機関の方等、皆様のご理解があつてこそだと感じている。本当にありがとうございました。



シリアからの研修参加者の皆さんと企業訪問。  
後列左から3番目が森津さん。

**PREXの  
研修実績**

 2008年  
3月末現在

PREXは、1990年4月設立以降、開発途上国の人材育成事業と、その活動を通しての国際的人材交流促進に努めています。

● 研修累計(1990～)  
**379**コース

● 受講者累計(1990～)  
**112**カ国・地域 **11,300**名

【受入(訪日)研修 3,466名 / 海外研修 7,834名】

● 2007年度実績  
**40**コース **995**名  
【受入研修 28件 / 海外研修 9件 / 交流事業 3件】

● 2006年度実績  
**43**コース **1,314**名  
【受入研修 30件 / 海外研修 8件 / 交流事業 5件】